

令和2年度 第4回がまごおり協働まちづくり会議議事要旨

日 時 令和2年12月11日(金)

午後1時30分～

Web会議システム(Zoom)にて実施

1 開会

形原1区町内会「お助け隊」「まめだ会」 厚生労働大臣優秀賞受賞報告
事務局より配布資料の確認、欠席者の報告

2 議題

(1) 今年度助成金事業について

○今年度採択団体の状況について

- ・蒲郡雅楽倶楽部は、小学校3校で体験授業を実施できることとなっていた。塩津小、三谷東小は実施できたが、三谷小は市内でコロナ感染が拡大していたこともあり中止となった。実際、演奏は5人で行うものだが、人数制限が課されていたということもあり3人に絞って実施した。見学者も断っていた。
- ・賀詞交歓会で1年間の活動報告をしてもらう予定であり、事前に動画撮影を予定。

○新型コロナ対策コース応募状況について

- ・前回の会議で「3団体の相談があり、うち1団体は助成金が不要の事業。他2団体は継続して相談中である。」と報告した。ただし、2つの団体とも今回申請には至らなかった。
- ・コロナウイルスの影響により、まちづくりセンターへの人の出入り、電話相談のどちらも少なくなっている状態。来年度の助成金申請も、同じ状態が続くとなると不安である。
- ・相談があった3団体とも、コロナウイルスで「本当に事業を進めていいのだろうか」といった不安や、内部合意を得る手段など今まで以上に苦勞されている印象を受ける。
- ・申請に至らなかった1件については、申請期限までに書類が整えられなかった。もう1件については、事業の内容がコロナウイルスとは無関係な「自分たちの思いを伝えたい」といった自己開発セミナーに近いものだった。コロナウイルス対策を含めた事業に修正できないかとまちづくりセンターより促したが、団体からは「内容の修正は難しい」といった反応だったため、今回は不受理とした。

○令和3年度募集について

- ・今年度同様の募集を考えている。前回の会議で、「コロナ対策をしているか」「実施については臨機応変にできるような体制にする」といったことを入れるか伺ったが、相談を受けるまちづくりセンターのスタッフが説明をすることとなった。また、例年であればはじめの一步部門が面接審査、活動ステップアップ部門が公開審査となっているが、現状の状況を勘案してどちらも面接審査の実施にすべきかと考えている。

→はじめの一步部門は団体での申請が必須要件であり、団体メンバーの名簿、

団体規約の提出が義務となっている。提出するにハードルが高いと感じている。はじめの一步部門は助成上限10万円であるが、上限5万円でもかまわないので、簡単に申請できる部門の新設を希望する。1人、2人でも申請できるようにしてほしい。

- 若者がチャレンジできる部門を作してほしい。
- 現状は、最低3名の団体から申請ができ、1万円~10万円の助成を受けることができる。
- はじめて事業を行いたい人にとって、申請時の書類を準備するハードルが高いと感じている。
- 1人の取組であれば、助成金に頼らずまずやってみるというアプローチもある。ただ、助成金が無いとできないものと、助成金により活動が可能となるものがある。
- 既に活動しているものにとっては、規約、名簿の提出を求められるのは、税金を使う以上理解できるが、本当に初めての方からすると難しいのではないかと感じる。
- 税金でやる活動助成だとある程度のルールは仕方ないと思う。規約作成が難しいと感じてしまうのであれば、助成金に頼らずやってみるというのもよいかと思います。
- 今のまちづくりの助成金はテーマ型の団体を想定して作った。それを踏まえて、これからのまちづくりは地域の皆さんが作り上げていく必要がある。
- 過去に他市であったのが、助成金事業で講師料を払う時に団体メンバーの中で講師を依頼し、お金を回してしまうという例。そのような事態を防ぐため、名簿提出を依頼している。ただ、これが地縁型の団体になるとメンバー全員の名簿を提出するとなると難しい。そのため、地域の人たちにこの助成金を活用してもらうには、もう少し研究する必要がある。
- コンテスト形式の募集方法でもよいと思う。
- 一番簡単な規約を手直しして作成すればよいと思うが、まちづくりセンターがもう少しサポートしてほしい。3人の名簿が必要というのも、自分の他に2人いてくれば、ブレーキ役にもなってもらえるのではないかと感じる。
- 町内会で「もし家族内で感染した場合なにかサポートできないか」を検討している。感染者は外出が難しくなるので、買い物を代わりにしてあげるなど。そんな活動でも、はじめの一步部門に該当するのかなと感じる。
- 新しい枠を作るのは、違う視点でまちづくりに関わる人を作る、大事なことだと思うが、こういったやり方がよいかは難しい。そのような視点から言えば、民間や中間支援組織からの補助の方が使いやすいかもしい。
- 「気楽にチャレンジできる」「ハードルは高くない」など助成金の広報の仕方は、工夫が必要。
- 来年度、委員の方と話し合いながら検討していきたいと思う。

・オンライン審査会についてはどうか。

- Zoom でやるとなると事前の参加申込が必要。今までは、申込自体をしていない。
- 公開審査を面接審査にするイメージであった。
- 審査をオンラインでするというイメージが湧かない。応募団体のメンバーは、

- 同じ場所において3人程で画面に収まるのか
- 同じ組織で別のところにおいてもよい。
 - 個人なら可能だが、グループとなると難しい。
 - 面接審査ができないと決まれば、それに従うしかない。もう少し、状況に応じた詳細な仕組みづくりが必要。
 - 例年の面接審査でも団体から3人程の参加があるが、1つの質問に対して相談して回答するというシーンは少ないと感じる。なので、個人で参加となっても面接自体は実施可能ではないか。また、オンラインでの開催となった際には、ぜひまちづくりセンターと練習を実施するのもよいと思う。
 - 様々な状況に対応して、「やらない」という判断とならないことが大事。
 - オンライン、SNSでの相談が増えていると聞く。うまく組み合わせて実施していけるとよい。

(2) 協働モデル事業について

○SDGs 理解講座「SDGs を学ぼう」

- ・SDGs は蒲郡市でも各種計画に導入されているが、SDGs の内容が把握できていない方向けに、理解する講座を実施。SDGs は様々な繋がりを意識することが重要。社会課題の解決に取り組んでいる個人、企業、団体などが対象。2～3月で実施し、2時間超ぐらいのスケジュールで行う予定。コロナの停滞感が新しい発想を生むチャンスだと思う。
- カードゲームが楽しく、時間が過ぎるのが早く感じる。実施には賛成。
- SDGs って自分とは全く関係ないと思いがち。だけど、カードゲームであれば高齢の方でも参加を促しやすい。
- SDGs は17の目標がクローズアップされがちだが、「誰一人取り残さない」という理念自体が最も大切なこと。
- オンラインでのカードゲームができるのかが懸念される。
- 委託予定先には、オンライン実施の実績があるそう。
- 対面とオンラインでの開催では大きく異なるので、対応を検討してほしい。

○産学官連携による学生の地域企業紹介活動支援

- ・今年度は学生に意識調査を実施する。日常生活の情報収集方法、将来のことをどのように考えているのか、市内の企業をどのくらい知っているかなどを答えてもらう。そして直接話を聞く意見交換会を開催する。ただし、コロナウイルスの状態もあるので、毎年実施している賀詞交歓会と併せて実施する。
- ・前回の会議で「愛知工科大学の学生はどのくらい市内企業に就職しているのか」という意見があった。就職者は毎年5名程、インターンシップには10名程が参加している。
- 就職、インターンシップともに少ないと感じる。企業側も学生にアピールできるのはいい機会。また、企業紹介動画も企業にノウハウがないところもあるので、助かると思う。
- 他大学に行っているが市内在住の方など、参加範囲を広げるのはどうか。
- まちづくりフォーラムにも大学生がまちづくりについて発表する。名古屋大学と愛知工業大学の学生が参加。
- 市内でも愛知大学の学生がフィールドワークを実施するなどしている。ただ

- し、どこも単発的な関わりばかりなので、継続的に繋がっていくことが必要。
- 学生との繋がりでは、学生が課題だと感じていることを私たちが知ることが必要。
 - 企業側からすると「学生が来ない」という話がよく上がるが、直接話をする機会があるといいと感じる。ただし、学生が望む話をする必要がある。
 - 有償実習「ワーキングホリデーを受け入れた」。2週間ほど学生に働いてもらい、蒲郡市を知ってもらって、気に入れば市内で働いてもらう。
- 学生が事務局を作って、Zoomで取材を受けた。蒲郡市では4社エントリーしているが、若い人が意識を持って蒲郡市を持続可能なまちとして盛り立ててほしい。参加学生と愛知工科大学の学生が交流できる場がほしいと感じる。
- まちづくりは課題解決というのがまず思い浮かぶが、「どのようなまちにしたいか」をもとに活動するのもよい。

3 その他

○賀詞交歓会について

- ・Zoomでの開催とする。愛知工科大学の学生を入れて意見交換会を実施。事前申し込みが必須。

○令和元年まちづくり賞の授与について

- ・12月7日に「防災塾～知ってて蒲郡～」を表彰。

○今年度のまちづくり賞について

- ・蒲郡市民病院の病院ボランティアさん。地域医療ではスタッフが大変とういのが、10年以上前から言われている。その中で、ボランティアにより病院玄関でお出迎えをしている。

→次回の会議で最終的に決定する。

→委員の中でも情報共有ができるとよいかなと感じる。

次回開催時期について 令和3年3月23日（火） 午後1時30分～